

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 次の文章（イ～ホ）を読んで、文中の空欄（A～O）に該当する適当な語句をそれぞれの語群の中から選び、1～9の数字を、また語群中に適当な語句がない場合は0を、解答欄（解答用紙の右上）に記入しなさい。

（イ）『（ A ）』によると、478年、倭王（ B ）の上表文に、倭の王権が自ら戦い版図を拡大させたことが記されている。このような文章は渡来人の手によるものとみられ、上表文と同時代の、（ C ）古墳から出土した鉄刀銘には「書者張安」とみえる。

- | | | | | |
|------|-------|-------|--------|-----|
| 1 魏志 | 2 宋書 | 3 晋書 | 4 興 | 5 珍 |
| 6 讃 | 7 稲荷台 | 8 稲荷山 | 9 江田船山 | |

（ロ）607年、（ D ）は遣隋使として派遣されたが、国書の文面が原因で煬帝の怒りを買った。翌年、隋使の（ E ）とともに帰国したが、その途中、百済で隋の国書を紛失したと『（ F ）』に記されている。

- | | | | | |
|-------|--------|---------|------------|-------|
| 1 僧旻 | 2 高向玄理 | 3 犬上御田鍬 | 4 小野妹子 | 5 劉仁願 |
| 6 裴世清 | 7 日本書紀 | 8 古事記 | 9 上宮聖徳法王帝説 | |

（ハ）701年に大宝律令が完成すると、翌年、（ G ）を執節使とする遣唐使が32年ぶりに派遣された。長期にわたって遣唐使の派遣がなかったのは、この間、（ H ）で唐軍に大敗したこと、国内でも（ I ）後の国内体制の整備で、派遣にゆとりがなかったからであろう。

- | | | | | |
|--------|---------|----------|---------|---------|
| 1 粟田真人 | 2 伊吉博徳 | 3 山上憶良 | 4 藤原宇合 | 5 平城京遷都 |
| 6 乙巳の変 | 7 白村江の戦 | 8 藤原広嗣の乱 | 9 安祿山の乱 | |

（ニ）717年出立の遣唐使で入唐した留学生に（ J ）と（ K ）がいる。（ J ）は入唐後、李白・王維との交流もあり、唐で官人のまま没した。（ K ）は二度にわたって入唐し、帰国後は（ L ）追討の際にも活躍した。

- | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 1 阿倍仲麻呂 | 2 玄昉 | 3 恵美押勝 | 4 大和長岡 | 5 藤原清河 |
| 6 大伴古麻呂 | 7 石上宅嗣 | 8 道鏡 | 9 井真成 | |

（ホ）（ M ）年、遣唐使派遣計画は正式な決定のないまま中止されたが、その後も中国文化への関心は続き、たとえば、983年に（ N ）は中国に渡り、釈迦如来像を将来した。胎内に五臓などが納入された同像は現在、京都の（ O ）に安置されている。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 1 884 | 2 901 | 3 918 | 4 成尋 | 5 裔然 |
| 6 円仁 | 7 清涼寺 | 8 醍醐寺 | 9 法界寺 | |

Ⅱ 次の文章（イ～ハ）を読んで、文中の空欄（A～L）に該当する適当な語句をそれぞれの語群の中から選び、1～5の数字を、また語群の中に適当な語句がない場合は0を、解答欄（解答用紙の右上）に記入しなさい。

（イ） キリシタン版は、別名を（ A ）版とも言い、（ B ）年に（ C ）によってもたらされた活字印刷機を利用して作られた。作品としては、西洋のイソップ物語を翻案した『伊曾保物語』や、日本の古典の代表である『（ D ）』がある。また、同時期には、朝鮮から伝えられた印刷方法による（ E ）勅版もあるが、いずれの活字本も、江戸時代初期にはすたれた。

- | | | | | | |
|---|--------|--------|--------|--------|---------|
| A | 1 種子島 | 2 天草 | 3 豊後 | 4 安土 | 5 駿河 |
| B | 1 1570 | 2 1580 | 3 1590 | 4 1600 | 5 1610 |
| C | 1 ザビエル | 2 トレス | 3 フロイス | 4 アダムズ | 5 ヨーステン |
| D | 1 万葉集 | 2 古事記 | 3 源氏物語 | 4 平家物語 | 5 徒然草 |
| E | 1 天正 | 2 文禄 | 3 慶長 | 4 元和 | 5 寛永 |

（ロ） その後、江戸時代を通して流行したのは、今日の版画と同じ制作方法による整版と呼ばれる印刷であった。この整版により、大量の本の制作が可能になり、商業出版が確立し、今日の教科書の役目を果たした（ F ）も普及し、寺子屋などで一般的に使用されている。江戸時代中期以降になると、色刷りによる浮世絵の制作が（ G ）を中心に大流行した。浮世絵の代表的な作者である写楽の作品は、（ H ）・洒落本・狂歌本等の出版でも著名な蔦屋によって制作された。

- | | | | | | |
|---|--------|--------|--------|-------|-------|
| F | 1 町人物 | 2 武家物 | 3 時代物 | 4 世話物 | 5 好色物 |
| G | 1 長崎 | 2 堺 | 3 大坂 | 4 京都 | 5 江戸 |
| H | 1 御伽草子 | 2 仮名草子 | 3 浮世草子 | 4 黄表紙 | 5 赤本 |

（ハ） 明治時代になっても江戸時代の印刷方法は続いていたが、1869年には（ I ）が（ J ）で活版所を設立した。この近代活字印刷はさまざまな新聞や、西洋型の本の普及をもたらした。明治時代以降の文学作品は、近代活字印刷により大量に制作され、今日普及している文庫本も百年前には出版されていた。関東大震災後には、（ K ）が安価な（ L ）を出版して成功した。

- | | | | | | |
|---|--------|--------|-------|--------|--------|
| I | 1 福沢諭吉 | 2 中村正直 | 3 西周 | 4 加藤弘之 | 5 本木昌造 |
| J | 1 長崎 | 2 神戸 | 3 大阪 | 4 京都 | 5 東京 |
| K | 1 改造社 | 2 立志社 | 3 愛国社 | 4 嚶鳴社 | 5 偕行社 |
| L | 1 合巻 | 2 読本 | 3 円本 | 4 週刊誌 | 5 洒落本 |

Ⅲ 次の文章の空欄（A～I）に該当する適当な語句を記入しなさい。

1885年、朝鮮で前年に起きた甲申事変の処理のために、日本は全権として伊藤博文を清国に派遣し、清国全権（ A ）との間に、朝鮮からの撤兵などを定めた（ B ）条約を締結した。1894年5月に甲午農民戦争が起こると、6月に清国は（ B ）条約に基づいて出兵を日本に通告した。これに対抗して、日本はただちに朝鮮に出兵し、7月に朝鮮王宮を占領し、8月に清国に対して宣戦布告した。翌年2月に日本が威海衛を占領して勝利を決定的なものにすると、4月に首相伊藤博文と外相（ C ）は清国全権（ A ）との間に（ D ）条約を締結した。この後、ロシアは清国が弱体であると理解し、フランス・ドイツと共に日本に対して（ E ）を清国に返還するよう勧告した。

日本は（ D ）条約によって領有した台湾に台湾総督府を置き、（ F ）を初代台湾総督に任命した。当初は強い抵抗を受けたが、1898年に台湾総督児玉源太郎と民政局長（ G ）が就任して旧慣尊重を基本とする方針に転換すると、円滑な統治が可能になった。翌年、中国進出に後れをとったアメリカ合衆国は国务長官（ H ）が中国に対する機会均等・門戸開放を列強に通告した。朝鮮では、新任の日本公使（ I ）らが軍人などを王宮に乱入させて反日的政策を主導する閔妃らを殺害させた。これによって、朝鮮政府はロシアに接近していく。

Ⅳ 次の史料（イ～ハ）を読んで、設問に答えなさい。

（イ） 泰時たゞひとり、鞭をあげて馳せきたり。父^a、胸うちさはぎて「いかに」と問ふに、「（中略）もし道のほとりにも、はからざるに、かたじけなく鳳輦^bを先だてて、御旗をあげられ、臨幸の嚴重なる事も侍らんに参りあへらば、その時、進退はいかゞ侍^{はべる}べからん。この一事をたづね申さんとして、ひとり馳せ侍き」といふ。義時、とばかりうち案じて「かしこくも問へるおのこかな。その事なり。まさに君の御輿^{こし}に向ひて、弓を引くことは、いかゞあらん。さばかりの時は、かぶとをぬぎ、弓の弦を切りて、ひとへにかしこまりを申て、身をまかせ奉るべし。さはあらで、君は都におはししながら、軍兵を給せば、命を捨てて、千人が一人になるまでも戦ふべし」と、いひもはてぬに急ぎ立ちにけり。

（ロ） 「何ともあれ、土御門院の御末をこそ」と心中におもひけれども（中略）城介義景^dを^c使にて其由を申ける程に、（中略）義景申けるは「若すでに京都の御計にて、^e順徳院の宮つかせ給たらば、いかゞあるべき」と申けるを、泰時返々感じて「此事を申落たりける（中略）何条子細あるまじ。若^{もし}さる御事あらば、おろしまゐらすべし」と申含けり。

（ハ） 前駆・御隨身^{ハセチツ}馳散テ声々ニ「如何ナル田舎人ナレバ加様ニ狼藉ヲバ行迹^{フルマフ}ゾ。院ノ御幸ニテ有^fゾ」ト呼リケレバ、頼遠^{キザ}酔狂ノ氣ヤ萌シケン、是ヲ聞テカラ、ト打笑ヒ「何ニ院ト云フカ、犬^{イヌ}ト云フカ。犬ナラバ射テ落サン」ト云儘^{イフママ}ニ、御車ヲ真中ニ取籠テ馬ヲ懸寄セテ、^h追物^{オフモノイ}射ニコソ射タリケレ。

（原文を一部修正）

問1 下線a「父」とは誰か、記しなさい。

問2 下線b「鳳輦」とは天皇の乗物のことだが、当時の天皇は幼少で、実際にこれに乗って臨幸することが想定されていたのは、天皇の祖父にあたる人物である。それは誰か、記しなさい。

問3 下線c「土御門院の御末」は、この時、実際に皇位につき、さらに子供のうちの2人が天皇に、1人が将軍になる。この人物は誰か、記しなさい。

問4 下線d「城介義景」の子は後に幕府の重鎮となり、問3の人物の跡を継いで朝廷を率いていた上皇と協力して、弘安徳政と呼ばれる政治改革を行ったが、1285年、政敵に敗れて滅ぼされた。この1285年の事件を何というか、記しなさい。

V 次の史料を読んで、設問に答えなさい。

今年も春より雨多く、洪水せし国もありしかど、本立て道行はるゝのならひにて、朝に a 賢者をあげ給へば、聞人さらに恐怖せず。殊に又、五穀のみのり近年の豊作と申触侍るにより、万民泰山による心地してけり。賤しきたとへに、雨降て地かたまる、といへるが如く、若今度の b 騒動なくば、c 御政事は改るまじき、など申人も侍りき。やつがれ、若かりし時より、風化次第に乱れ下り、此末いかなる世とやなりなん、また如何なる事や出来なんと、五十にあまる老の身にも応ぜぬ事のみを、日夜案じ居侍りしに、白河の太守老職に挙げられ給ひて後、わづか三月ばかりにして、

世にあふは 道楽ものにおごりもの ころび芸者に山師・運上

世にあはぬ 武芸・学文・御番衆の たゞ懇勤にりちぎなる人

といへる悪風、忽ちにあらたまり、又逢がたきと思ふ世に、再びあひ奉ることのうれしさに、拙き筆をこゝに止む。

(原文を一部修正)

問1 本史料は、『後見草』と題する書物の一節であるが、(イ)これを執筆した蘭方医の氏名を記しなさい。また、彼が晩年にまとめた回想録は、後に福沢諭吉らにより出版されることとなったが、(ロ)その書名を記しなさい。

問2 下線aとして具体的に挙がっている人物を、史料中から抜き出さないさい。

問3 下線bは、江戸や諸国での打ちこわしを指しているが、この打ちこわしが起こった年を、西暦で記しなさい。

問4 下線cの改革では、豪商10名が、ある役職に登用された。その役職名を記しなさい。

問5 下線cの改革の一環として、旗本・御家人の借金が免除されることとなったが、それを命じた法令の名を記しなさい。

問6 本史料で取り上げられている政局の変化は何か。また、それに伴いどのような世相が改まったと筆者は認識しているか。合わせて80字以内で説明しなさい。

(下書き用)

[illegible]